

令和8年度「総合的な探究の時間」の全体計画

北海道釧路東高等学校

生徒の実態 生徒は、明るく素直で、遅く生きていく力を持っているが、自己肯定感が低く、忍耐力が弱く安易に諦める傾向が見られ、基本的な生活習慣や基礎学力が身に付いていない生徒も多い。また、規範意識や公德心が希薄な面も見られる。 進路については、進学は推薦による進学が多く、就職は地元志向が強い。	スクール・ミッション 集団生活や特別活動等を通じて、コミュニケーション能力や人間性を身に付けた生徒の育成 <hr/> 校訓 ○自主協調 ○創意実践 ○進取澆烈 <hr/> 学校教育目標 何ごとも大切にし、まわりから大切にされる人を育てる～自他を価値ある存在として尊重し、ウェルビーイングの実現に貢献する生徒の育成～	地域の実態・期待 本校は、昭和53年に創立された釧路町に所在する唯一の道立高等学校であり、これまで様々な分野で活躍し社会に貢献できる人材を輩出しており、地域からは常に「地元を担う人材の育成」を期待されている。
--	---	--

キャリア教育目標 社会で生き抜く力を養うために、自ら思考し判断したことを、他者とのコミュニケーションをはかりながら、自律して実践できる生徒を育成する。

総合的な探究の時間の目標 探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、一人一人の自己実現に向け、主体的に課題を発見し、創造的・協動的に解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 探究に主体的・協動的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、自他の心と生命を尊重する精神を涵養する。 (2) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、継続的に努力する気力・体力を養うとともに課題解決能力を向上させる。 (3) 実社会や実生活と自己との関わりから課題を見いだし問いを立て探究する過程を通して、確かな学力を定着させ、進路希望を実現させる。
--

対象	目標	内容	学習評価の観点・方法
1年	(1)自分の就きたい職業を考えさせるとともに、進路実現のための経路を考えさせる。 (2)進路選択のために自己理解を促し、自己理解を深めさせる。 (3)地域の自然環境や産業、文化、歴史を学ぶことにより、地域への興味・関心を深める。 (4)地域の現状を理解し、地域の課題について主体的に向き合う態度を育成する。	(1) 課題を見だし、解決するという探究学習のプロセスについて基礎的な学習をする。 (2) 目的に沿って情報を収集・分析する経験を積み、アウトプットを通して論理的にまとめ・表現する力を身に付ける。 (3) グループワークを通して自らの考えを周囲の人間と共有することで、物事を多面的にとらえる力を身に付ける。 ・自己理解・進路適性診断、キャリア講演会、職業調べ、職業体験会、ボランティア ・地域探究学習 等	《評価の観点》 (1)自らの課題と目標を設定できたか。 (2)主体的に情報収集や探究に取り組み、レポートとしてまとめることができたか。 《評価方法》 (1)報告書、レポートなどの製作物とそれらを集積したポートフォリオによる評価 (2)学習記録などによる生徒の自己評価
2年	(1)自己の能力・適性等の理解を深めさせ、具体的に進路目標を設定できるようにする。 (2)進路活動を通して社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力・態度を育成する。 (3)地域の魅力を再発見するとともに、情報を収集、整理、分析し、その内容をまとめ、発信できる力を育成する。	(1)自己における現状と課題について、探究の見方・考え方を働かせて、課題を見いだしていく。 (2)見いだした課題について、集めた情報や教科で学習した内容を統合しながら情報を精査・分析する。 (3)探究学習を通して、自らの役割を発見する。また、議論を繰り返すことにより考えを深めていく。 (4)集めた情報をまとめ、わかりやすく発信する方法を見いだしていく。 ・進路別講話、進路適性検査、インターンシップ、面接練習、ボランティア ・地域PRパンフレット作成、地域PR活動 等	《評価の観点》 (1)情報の収集や分析を、主体的かつ協動的に行っているか。 (2)総合的な見方・考え方が出来、探究の成果物を、わかりやすく的確にまとめているか。 《評価方法》 (1)報告書、レポートなどの製作物とそれらを集積したポートフォリオによる評価 (2)学習記録などによる生徒の自己評価
3年	(1)具体的な進路先を決定するとともに、進路目標達成に向けて努力させる。 (2)進路活動を通して、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力・態度を育成する。 (3)地域に対する幅広い知識を有し、自ら地域社会の発展に参画・貢献しようとする態度を育成する。	(1)自らの進路について、関連する課題を見だし、探究の見方・考え方を働かせて、解決に向けて取り組む。 (2)見いだした課題について、様々な媒体から情報を入手、得られた情報を精査・分析し、必要に応じて問いを立て直す。 (3)精査・分析して得られた結果を、興味・関心に関連付けて新たな課題を見だし、自分の進路に向けて活用する。 ・進路面談、進路別学習、履歴書作成、社会人講座、ボランティア 等	《評価の観点》 (1)主体的に学習や情報収集に取り組む姿勢があったか。 (2)自らの課題と目標を設定し、具体的な成果をまとめることができたか。 《評価方法》 (1)報告書、レポートなどの製作物とそれらを集積したポートフォリオによる評価 (2)学習記録などによる生徒の自己評価

各教科との関連	地域との連携	中学校や就職先、進学先との連携
・アクティブ・ラーニング型の授業を各教科の状況に応じて取り入れることで基礎的な学習事項の理解と定着を図る。 ・各教科において身に付けた知識を教科横断的に活用する学びを通して、実社会の様々な場面で活用できる能力を育成する。	・地域を学ぶことを通して、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源を、地域等の外部の資産も含めて活用し、教育を学校内に閉じることなく、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させる。	・キャリア研修、大学訪問や出前講座等による上級学校との連携。 ・キャリア研修、企業訪問や卒業生による講演等による企業との連携。 ・各種行事等を通じた小中学校との連携。